

タイトル 地域の駄菓子屋さんと育むまち・人とのつながり  
コミュニティスペース・コワーキングスペースを加えたコンバージョン

設計 (株)後藤組設計室+座古竜介  
+吉川亮設計室

施工 (株)クイックベンリー

構造 鉄筋コンクリート造

講評

子供たちが大好きな駄菓子屋に、地域に開放されたコミュニティスペースと入居者用のコワーキングスペースを併設した改修。この空間で生まれる賑わいと、子ども大人も一緒に過ごす時間が、地域コミュニティにとって大切な資源であり力となることが期待できる。

コンバージョン前後の写真



①大山街道側からの眺め。左が駄菓子屋、右がコミュニティスペース。



②野菜のマルシェのときには店先に賑わいが生まれます。



④小学生向けワークショップ。



⑤オーナーと入居者の月例会。



⑥地域の子供達向けの子ども紙芝居。



1.大山街道に背を向けた配置の番台でした。



2.住戸は介護のために使われていました。



③左から駄菓子屋、地域用のコミュニティスペース、入居者用のコワーキングスペース。



⑦駄菓子屋のおばちゃんは地域の顔。改修後も多くの子どもで賑わっています。



⑧引戸が全て引き込めるコワーキングスペース。



⑨隔週で開催されている野菜のマルシェ。



⑩コミュニティスペースのお知らせコーナー。



⑪地元の親子連れで賑わうミニ四駆大会。

コンバージョンの動機/設計・施工の工夫点/施主の満足度/利用者等の評価

川崎市高津区二子、大山街道に面した駄菓子屋さんと、その裏にあるマンションの一室のコンバージョンです。子どもたちで賑わう地域のお店ですが、新たに入居者（オーナー所有の賃貸物件）用のコワーキングスペース、地域に開放できるコミュニティスペースを併設しました。L型の平面構成で引戸の開閉によって、一体利用が出来、フレキシブルに使えるのが特徴です。きっかけは入居者とオーナーの会合。入居者が気兼ねなく使える仕事場があったら嬉しい、という話でした。そこから約2年を

けて検討を行い入居者だけでなく、地域の拠点として、コミュニティスペースとしても計画を行ないました。今では、野菜のマルシェやワークショップなどのイベントや入居者とオーナーの毎月の会合に利用され、オープン以来、まちにも浸透しつつあります。オーナーのコメント：入居者を含めて地域の人に街で知り合いを作れる場所が出来ました。駄菓子屋と組み合わせる事でイベントの価値が何倍にもなると実感しております。今後の展開も楽しみにしています。

建物として確保した性能  
防犯性能

特に配慮した事項

コミュニティスペースは通りを歩いている人も気軽に立ち寄れるようにしつつも、コワーキングスペースや駄菓子屋はセキュリティに配慮しました。

データ

所在地 神奈川県川崎市 新築竣工年 1986年 築後年数 34年 施工期間 90日間

該当工事床面積 78㎡ / 総工事床面積 78㎡ 該当部分工事費 900万円 / 総工事費 900万円

コンバージョン後の用途： □併用住宅 / ■店舗・飲食店 / □宿泊施設 / ■多目的スペース / □子育て支援施設 / □高齢者福祉施設 / □図書館 / □工房 / □その他

コンバージョン前の平面図



コンバージョン後の平面図

